

# にほんブログ村通信

第九十八号

平成十五年五月二十日

〒九三二〇八〇四 高岡市間屋町四十

有限会社 沖商店

2015.5.21(水)

TEL 〇七六六二一五五〇  
FAX 〇七六六二一五五〇  
E-mail [okashoten@open.ocn.ne.jp](mailto:okashoten@open.ocn.ne.jp)

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれてきたのでしょうか』『人生の本来の目的は何なのでしょう』『それを皆様と一緒に考えたい』『皆様の心に一石を投じる意味で本通信をお届けします。』

## 一 『唄を忘れたカナリヤ』

人には真の親友が三人いると聞いていますが、今現在（人間死ぬまで修行ですから、今後私に如何な親友ができてくるか判りませんので）私にも心の友と云えるのが三人います。その中で、一番長く頻りに接しているのがHさんです。

Hさんは、私と高校は異なりましたが、小学校・中学校と一緒に、特に中学校でのクラブ活動が同じ野球部でしたのと家が近かったのとで、本当に近い関係にありました。それが高校卒業後の一時期を除いて今でも続いています。

Hさんと私の間には、文字通り『遠慮会釈』はありませんし、『失礼』などと言う言葉もありません。知らない他人が二人の会話を聞いたら、呆れ果てるほど、お互いに好き勝手な物言いをしています。酒など飲んだ意見交換の場は、まさに喧嘩そのものです。（大概は私の方が大言・失言をしているのですが）

そのHさんから聞いた話です。  
Hさんは野球で名高い高岡のT高校卒業で、先輩の嫉妬かじめか、いわゆる極度のシゴキを受け、途中で野球部を辞めましたが、いまでもT高校野球部の熱心なファンです。

先日、T高校へ練習員合を見に行つたそうです。（T高校野球部にはその様な熱心なファンが大勢います）野球部員は七十〜八十名でしたが指導者は監督ひとりだけで、レギュラー中心の指導のため、大勢の部員はグラウンドのあちこちでなんとなくうろろしている感じで、効果的な練習風景ではなかったと言います。更に彼が憤慨したのは次の練習を見てでした。

設定は一点リードで迎えた九回の表、ワンアウト一

塁・三塁の守り、ここで抑えれば勝ち、という場面。ここで監督が、ノックで内野ゴロを打ち、ランナーの動きを見ながら如何にプレーするかの練習です。

彼の言うのには、十回の中、八回点を取られ、六回がバックホームあるいはゲッツー狙いの二塁〜一塁へい出すのでしようか。その方法を酒を酌み交わしながら論ずる、Hさんと選手になるうとする者のプレーとは思えない、拙い私の選んだそうです。

彼の現役時代（四十年ほど以前）、T高校は名実ともに名門高校で（野球だけでなく営業マンとしての資質・面からも）就職については、全国から、是非わが社にひとりだけでも廻してくれと言う要望が殺到して、進路指導の先生はその就職先の選択に苦労していました。この様な文武ともに優れたT高校には、富山和辛子・わさび・生姜・ミョウガなど辛いものはなく、近所の先輩方がボランティアで指導に加わっていました。時には大学からも有名選手をよんで指導して来ましたが、毎回、変わりはありませんが、今回の結人を育てるのは大変だったろうな、といまさら頭の下

その素晴らしい素質の者たちを指導する側が、これ私の健康体はこれら、香辛料の効き目が少なくないとまた充実していました。学校側の顧問や部長の先生方思っています。

その素晴らしい素質の者たちを指導する側が、これ私の健康体はこれら、香辛料の効き目が少なくないとまた充実していました。学校側の顧問や部長の先生方思っています。

そんな時代に育つた彼が目にした先日のT高校野球部の拙い練習風景は、彼にはとても信じられなかった。だるうし、憤慨したもの無理からぬことと思えました。二に確実に捕球。二に素早く正確な投球。この、とつて投げると言う野球の基本の動作がすっかりできていなくて、他のどんな練習をしていても無駄と彼は言います。

基本をいいかげんにして表面だけのかっこよさに憧れる現在の日本の若者たち。そしてこれは高校野球だけの話ではありません。また、スポーツに限ったこと、年齢に限ったことではありません。現在の日本では、あらゆる場面においてその基本が成っていません。自分が何の為にこの世の中へ生まれてきたか、忘れてしまったからでしょうか。

『唄を忘れたカナリヤ』  
背戸の小藪に捨てましようか  
いえいえそれはなりません  
『唄を忘れたカナリヤは  
柳の鞭で打ちましようか  
いえいえそれは可哀想』

『唄を忘れたカナリヤは  
象牙の船に銀の櫂  
月夜の海に浮かべれば  
忘れた唄を思い出す』

基本を忘れた日本人は、どうすれば忘れた基本を思い出すのでしようか。その方法を酒を酌み交わしながら論ずる、Hさんと彼の宴会は夜深くまで続きます。

二 魔除け（私の健康の元）  
バンパイア・吸血鬼。彼が嫌うもの。それは、十字架、日本昔からの魔除けに、軒下に、たまねぎ・にんにく・唐辛子を吊り下げていたと言います。この、たまねぎ・にんにく・唐辛子、さらに、胡椒・生姜・わさび・生薑・ミョウガなど辛いものはなく、それだけのおかげだとは言いませんが、医者も羨ましました。

先月、二十三日・二十四日と一泊人間ドックへ行つて来ました。毎回、変わりはありませんが、今回の結人を育てるのは大変だったろうな、といまさら頭の下

検査前の問診書に、毎日晩酌、日本酒三合〜五合、十八歳からはじめて今日まで休肝日なし、月に宴会五〜十回、一回に日本酒五合〜十合と記しました。毎年のデータと今年のデータを並べての医者さん、曰く「この年までこれだけ酒を飲んでこの数字とは、よほど酒が与わっているのだな。羨ましい。いままでの生活で宜しいと言っておきましょう」

でも、私には判るのです、私の健康の訳が。それが先ほど記した香辛料、たまねぎ・にんにく・唐辛子、胡椒・和辛子・わさび・生薑・ミョウガです。特に唐辛子（たかのつめ）は私の常持（薬）です。ラーメンにもお菜にもたくさん降り掛けて食べます。食べると便意を催します。食べ過ぎると下痢をしま

す。その時の便には、『たかのつめ』が食べた時そのまの姿で出て来ている。微生物のわるさで下痢をするのではなく、むしろ腹中尚幸いですが、微生物の殺し、余分な脂肪を燃やして、身体に不必要なものを排出する働きがあると思われま

医学知識の低かった昔、病気が魔が身体の中に入り込んだ結果と思っていました。とすれば軒下に、たま

ねぎ・にんにく・唐辛子を吊り下げていた家では、自然にそれらを食するので病気が少なかったと思えます。それが、にんにく・唐辛子などが『魔除け』と呼ばれた由縁ではないかと思えますし、私は私の健康は私

三 長女の初産婦  
一昨日（十八日）愛知県半田市へ嫁ついで長女が、私にとつては初めての孫、『初孫』の初産婦を終え、二月二十七日に産まれて、退院以来、昼と無く夜となく泣いていた声が聞こえなくなり、ほっとしたような、愛想がなくなつたような、複雑な思いがします。

長女はすべてを孫に注いでいます。昼と無く夜と無泣く孫に合せ一睡もせぬ夜もあつたように思っています。子供がこんなに手数が掛かるものとは、初めて知り

私の子育ては、仕事にかこつけ、ゴルフにうつつを抜かし、全部妻任せでしたので、あまり苦労の実感はありません。三人年子、そして七年後にまた一人、四

私の妻は私の元へ嫁ついで来て、幸せだったろうか。幸せな思いは余りさせなかつたように思っています。長女の子育ての様子を見て、はじめて反省させられました。

孫の健やかな成長は勿論、長女が子育てに一途になりすぎて、身体を損なわないように願われてなりません。

四 メールください  
本にこにこ通信は、郵便、FAX、持参、メール、の方法でお届けしています。

メールは便利です。郵便、FAX、持参のお届けもそれなりの趣がありますが、速さ、安さ、手軽さ、いずれもメールにはかないません。ひとりに送るのも百人に送るのも手数は変わりません。できれば今後メールでお届けしたいと存じますので、できれば今後メールでお届けしたいと存じますので、本にこにこ通信へのご意見などお届け下されば、

有限会社 沖 商店 代表取締役 沖 昌弘  
個人メール E-mail [Okashoten@open.ocn.ne.jp](mailto:Okashoten@open.ocn.ne.jp)  
個人的な連絡は[okashoten@open.ocn.ne.jp](mailto:okashoten@open.ocn.ne.jp)